

令和4(2022)年度科研費等の審査に係る総括

令和4(2022)年度科研費等の日本学術振興会審査担当分の応募受付から審査終了までの総括は以下のとおりである。

1. 全体のまとめ

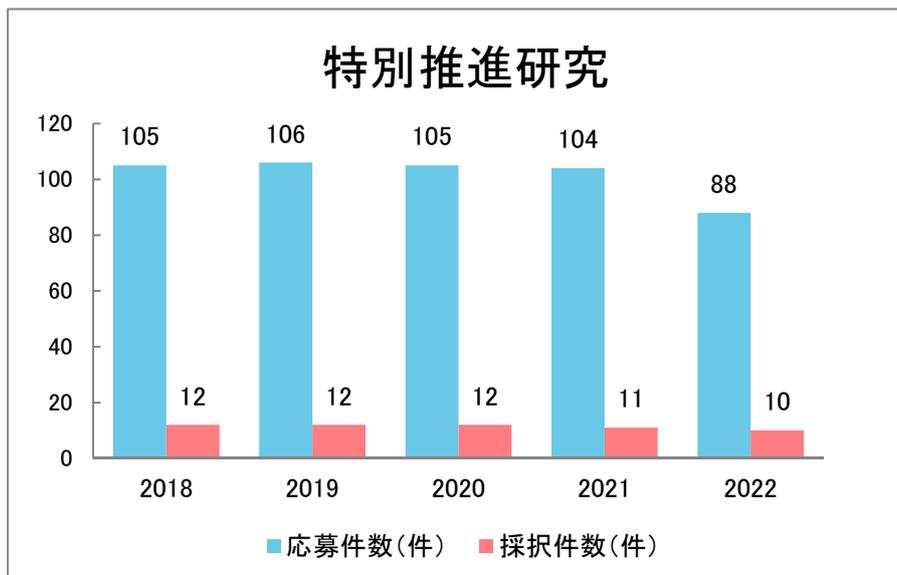
(1) 研究種目ごとの審査結果（新規応募・採択状況）

①特別推進研究

新規応募件数は88件（前年度104件）、採択件数は10件（同11件）であった。特別推進研究の審査について、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナという。）の感染拡大等の影響により、昨年に引き続き「Web会議」形式で実施した。

具体的な審査方法等の詳細は、後述の「4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について」に記載した。

応募件数・採択件数の推移



②基盤研究

「基盤研究」全体での新規応募件数は59,557件（前年度59,757件）、採択件数は16,963件（同16,921件）であり、前年度より応募件数は減少し採択件

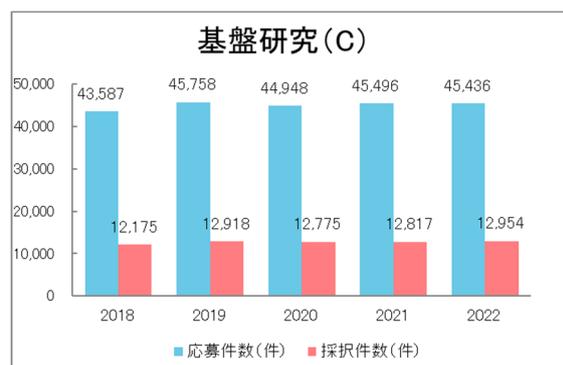
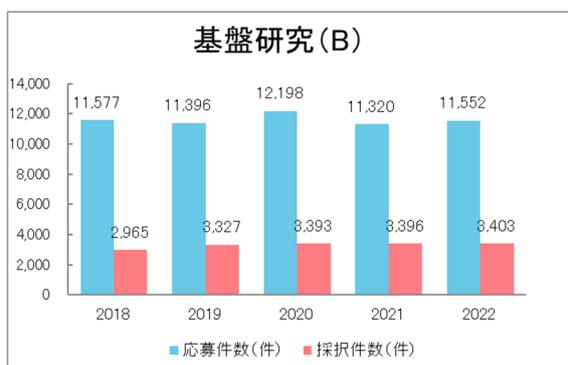
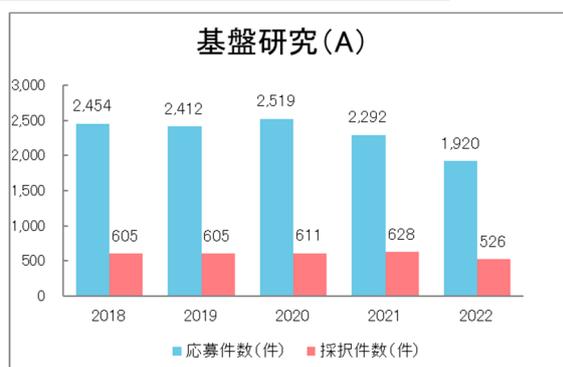
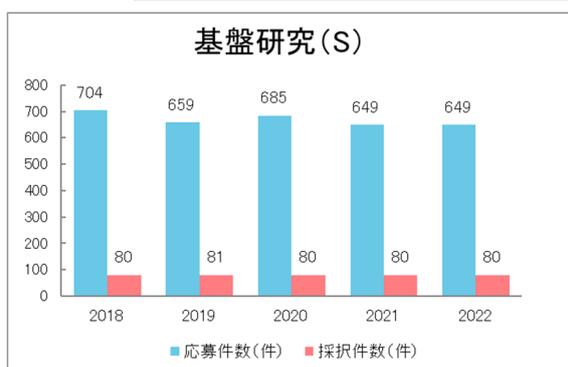
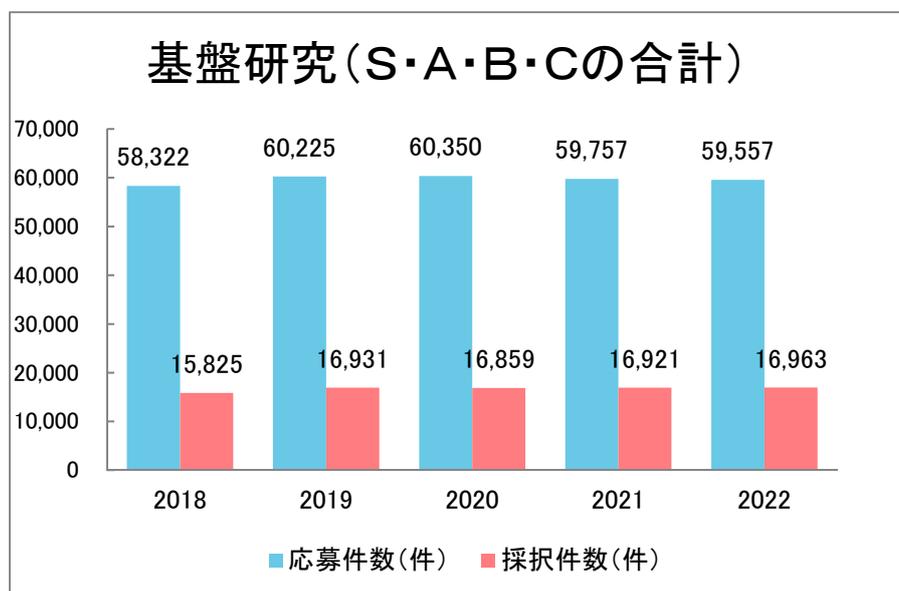
数は増加した。

また、各研究種目における応募件数について、基盤研究（S・A・B・C）はそれぞれ649件（前年度649件）、1,920件（同2,292件）、11,552件（同11,320件）45,436件（同45,496件）であり、基盤研究（A）は前年度より大きく減少し、基盤研究（C）はわずかな減少となった。なお、基盤研究（B）は前年度より増加した。

なお、基盤研究（S・A）の審査については、コロナの感染拡大等の影響により、昨年引き続き「Web会議」形式で実施した。

具体的な審査方法等の詳細は、後述の「4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について」に記載した。

応募件数・採択件数の推移



③若手研究

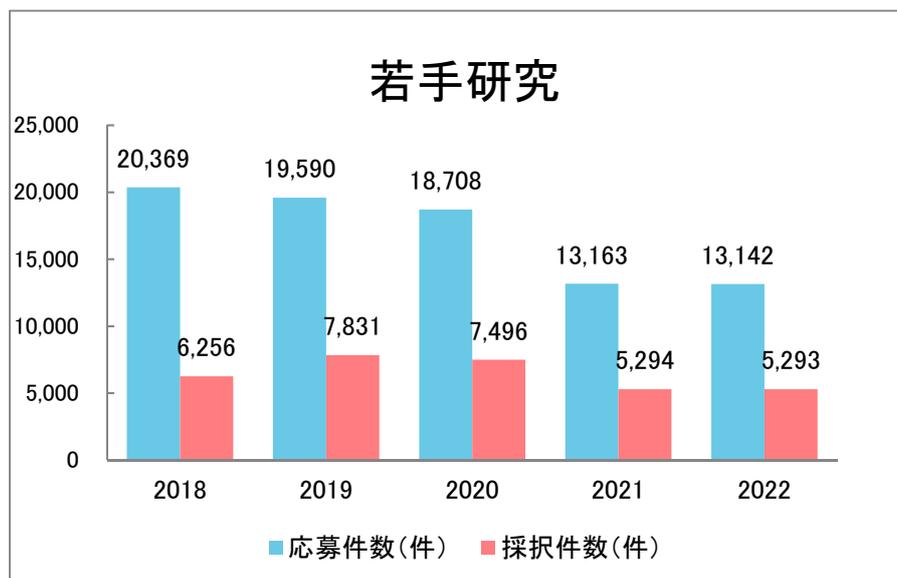
「若手研究」全体での新規応募件数は13,142件（前年度13,163件）、採択件数は5,293件（同5,294件）であり、応募件数・採択件数ともにわずかに減少した。

令和4（2022）年度応募に関して、令和4（2022）年4月1日までに博士の学位を取得見込みの研究者による応募は758件、博士の学位取得後に取得した産前・産後の休暇、育児休業の期間を除くと博士の学位取得後8年未満となる研究者による応募は98件であった。また、採択件数はそれぞれ274件、41件であった。

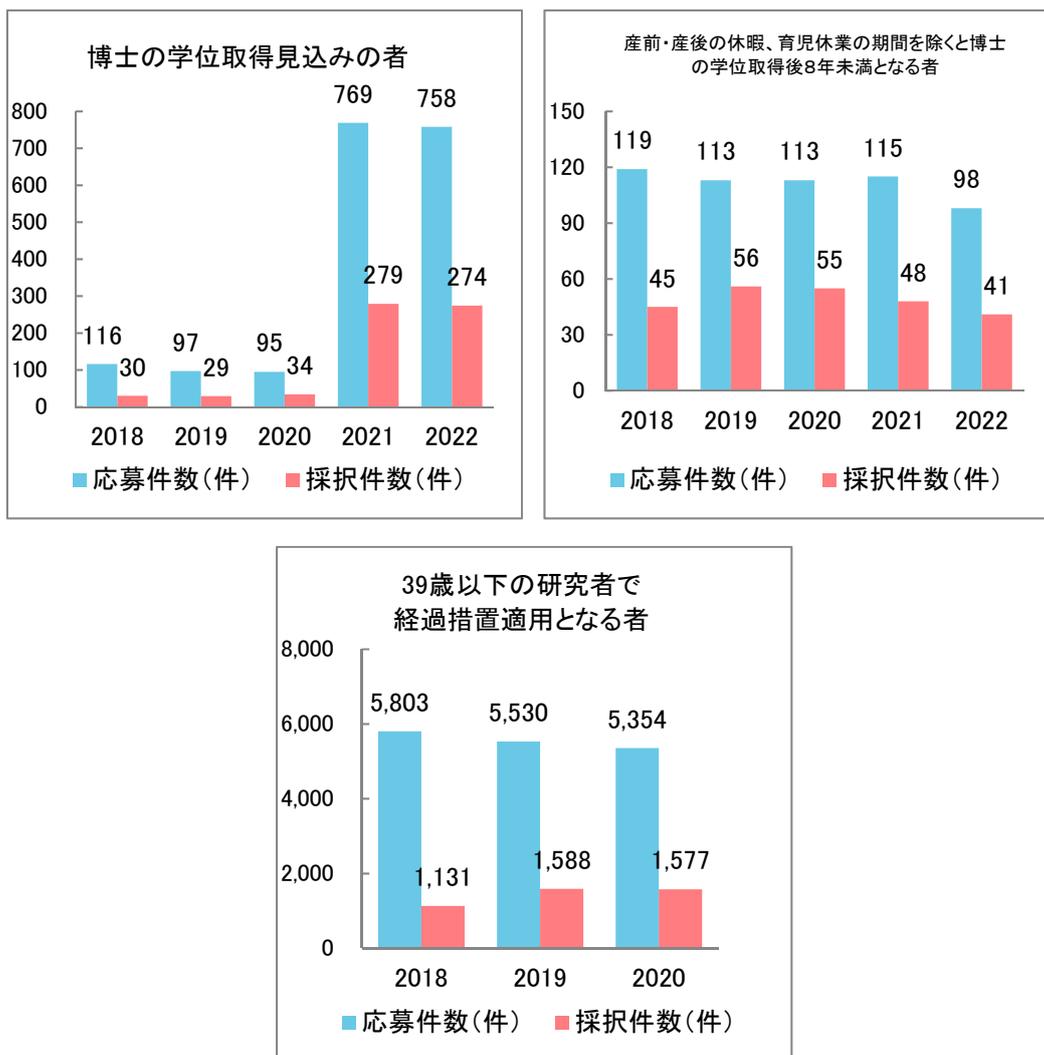
若手研究の令和3（2021）年度公募以降の応募件数の大幅な減少は、令和2（2020）年度公募まで適用されていた応募資格に関する経過措置（39歳以下の博士号未取得者の応募も認める）が終了したことが主な原因と考えられる。

また、「博士の学位取得見込みの者」として応募のあった件数が令和3（2021）年度から急増しているが、これは、上述の経過措置の終了により、従来「博士号未取得で39歳以下」として応募可能であった者が、令和3（2021）年度公募からは応募が不可能となったため、一部が「博士の学位取得見込みの者」としての区分で応募されたことが原因であると考えられる。

応募件数・採択件数の推移



※平成30（2018）年度より、若手研究（A）は公募を停止し若手研究（B）は「若手研究」に名称を変更

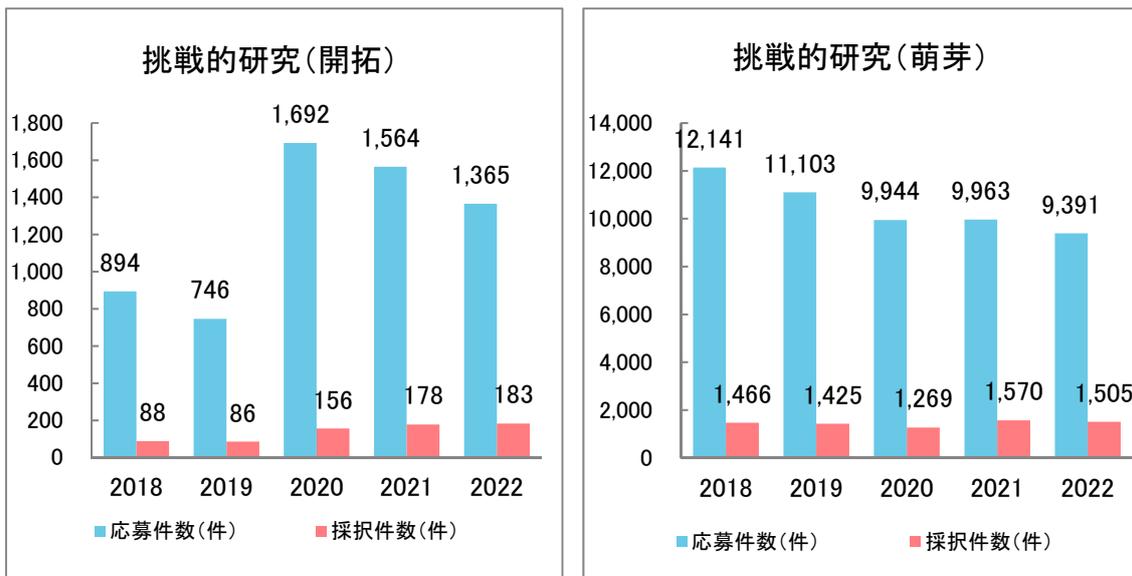


(参考)2018年度～2020年度の経過措置適用となる者による応募件数・採択件数の推移

④挑戦的研究

新規応募件数は（開拓）が1,365件（前年度1,564件）、（萌芽）が9,391件（前年度9,963件）であり、採択件数はそれぞれ183件（前年度178件）、1,505件（前年度1,570件）であった。また本研究種目では、応募額を最大限尊重した配分を行った。

挑戦的研究（開拓）の審査については、コロナの感染拡大等の影響により、昨年に引き続き「Web会議」形式で実施した。なお、挑戦的研究（萌芽）の審査については、令和4（2022）年度より審査方式を見直し、総合審査方式から2段階書面審査方式に変更して実施した。



⑤研究活動スタート支援

本研究種目の応募資格は、

- A) 令和3(2021)年10月7日以降に科学研究費助成事業の応募資格を得たため、日本学術振興会が同年7月及び8月に公募を行った研究種目(※)に応募できなかった者
- B) 令和3(2021)年度に産前産後の休暇又は育児休業を取得していたため、日本学術振興会が令和3(2021)年7月及び8月に公募を行った研究種目(※)に応募できなかった者

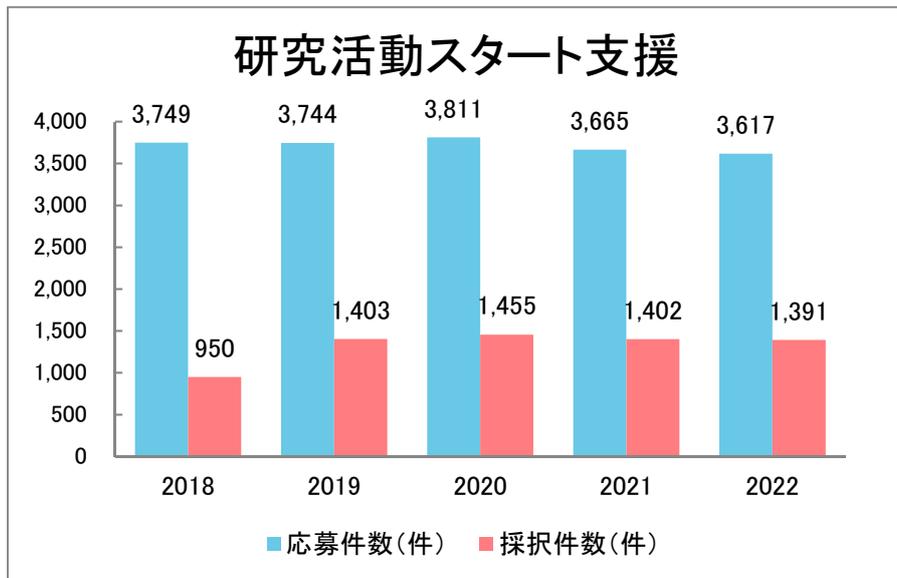
(※) 令和4(2022)年度科研費のうち、「特別推進研究」、「基盤研究」、「挑戦的研究」及び「若手研究」のことをいいます。

としている。

応募資格A)の新規応募件数は3,539件(前年度3,580件)、採択件数は1,354件(同1,365件)で、応募資格B)の新規応募件数は78件(前年度85件)、採択件数37件(同37件)となった。

上記を合計すると、令和4(2022)年度の新規応募件数は3,617件(前年度3,665件)、採択件数は1,391件(同1,402件)であった。

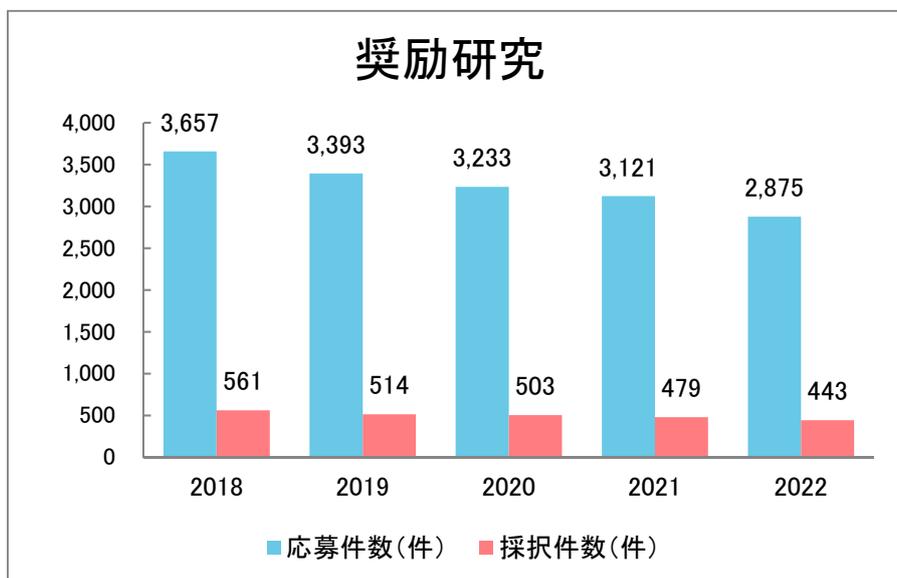
応募件数・採択件数の推移



⑥奨励研究

新規応募件数は2,875件（前年度3,121件）、採択件数は443件（同479件）であり、前年度より応募件数・採択件数ともに減少している。

応募件数・採択件数の推移

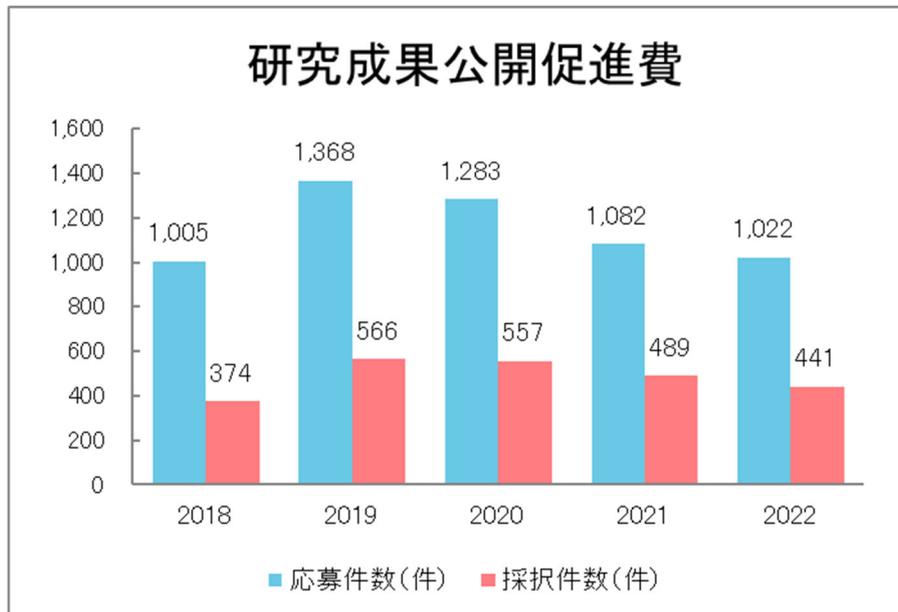


⑦研究成果公開促進費（研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）

「研究成果公開促進費（※）」全体での新規応募件数は1,022件（前年度1,082件）、採択件数は441件（同489件）であった。なお、応募件数及び採択件数の内訳は、「研究成果公開発表」の応募件数338件（前年度347件）、採択件数201件（同229件）、「国際情報発信強化」の応募件数29件（前年度24件）、採択件数13件（同10件）、「学術図書」の応募件数585

件（前年度 636 件）、採択件数 196 件（同 218 件）、「データベース」の応募件数 70 件（前年度 75 件）、採択件数 31 件（同 32 件）であった。

応募件数・採択件数の推移



※令和元(2019)年度より、「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を研究成果公開促進費（研究成果公開発表）として、公募と審査を実施。

(2) 主な制度改善等

①公募及び審査結果の通知時期の早期化

令和4(2022)年度公募より、例年9月に公募が行われていた基盤研究等について、研究期間開始と同時に効果的に研究を立ち上げられるよう公募・審査スケジュールを早期化した。さらに、基盤研究(A・B・C)、若手研究及び奨励研究については2月下旬に、特別推進研究及び研究成果公開促進費については3月下旬に、新たに科研費電子申請システムを通じて審査結果(採択・不採択の結果及び交付予定額)を通知した。なお、その他の研究種目についても、交付内定日と同日付で審査結果を通知した。

②挑戦的研究の審査方式の見直し

令和4(2022)年度公募より、挑戦的研究について、挑戦的な研究課題を選定出来るようにするため、評定要素「A 挑戦的研究としての妥当性に関する評定要素」を独立させることにより挑戦性の評価を明確にした。また、挑戦的研究(萌芽)の審査方式について、審査委員の負担軽減につながるよう「総合審査」から「2段階書面審査」へ見直しを行った。併せて挑戦的研究(開拓)の合議審査で「挑戦性」に関する議論を実施することで、その後に行う挑戦的研究(萌芽)の2段階目の書面審査に議論の結果を反映出来るようにした。

③科研費審査システム改革2018の着実な実施

平成30(2018)年度より、科研費審査システム改革2018に基づき、新たな審査区分、新たな審査方式の下で審査を行っている。

審査区分については、従来の「系・分野・分科・細目表」を廃止し、「小区分・中区分・大区分」で構成される「科学研究費助成事業 審査区分表」を適用(特別推進研究等の一部研究種目は除く。)した。

審査方式については、特別推進研究、基盤研究(S・A)及び挑戦的研究(開拓)の審査は、書面審査を行った上で、同一の審査委員が合議審査を行う「総合審査」で審査を行った。さらに、特別推進研究及び基盤研究(S)については、専門分野が近い研究者が作成する審査意見書を、書面審査、合議審査で活用するとともに、ヒアリングを行った。

基盤研究(B・C)(応募区分「一般」)、挑戦的研究(萌芽)及び若手研究の審査は、同一の審査委員が2段階にわたり書面審査を実施する「2段階書面審査」で審査を行った。

なお、令和4(2022)年度公募より、基盤研究(S・A・B・C)、若手研究及び研究活動スタート支援の研究計画調書様式について、改革の趣旨を保ちつつ応募者及び審査委員の負担軽減につながるよう「1 研究目的、研究方法など」及び「2 本研究の着想に至った経緯など」を統合するなどの見直しを行った。

主な研究種目における審査の具体的な状況は、以下のとおりであった。

＜総合審査方式＞

○ 特別推進研究、基盤研究（S）

特別推進研究及び基盤研究（S）では広い審査区分（系、大区分）による審査を行っていることから、応募研究課題と専門分野が近い研究者が作成する「審査意見書」を審査時の参考資料として活用している。従前の「審査の着目点」ごとに求めていた専門的な意見に加え、令和2（2020）年度より、応募研究課題の課題全体を通した「長所」「短所」の両面からの意見を求めることで内容を充実させており、審査委員が行う審査により資するものとしている。

○ 基盤研究（A）、挑戦的研究（開拓）

総合審査方式については、審査委員、学術システム研究センター研究員双方より、前年と同様相当数の肯定的な意見があった。審査の更なる充実に資するように、審査資料や合議審査の進め方などについて、今後とも改善に向けて検討していく必要がある。

また、平成30（2018）年度より、不採択となった研究課題について、審査結果の所見を研究代表者に開示しており、基盤研究（A）は令和2（2020）年度から、挑戦的研究（開拓）は令和3（2021）年度から、採択された課題についても、審査結果の所見を研究代表者に開示するとともに、審査結果の所見の概要を科学研究費助成事業データベース（KAKEN）に公開している。

＜2段階書面審査方式＞

○ 基盤研究（B・C）（応募区分「一般」）、挑戦的研究（萌芽）、若手研究

2段階書面審査のボーダーゾーンの評点状況について、1段階目の評点が高得点でも2段階目では低い評点を付しているケース（又はその逆）が見られるなど、2段階目で他の審査委員の評価結果（審査意見）を参考に再評価する仕組みが機能していると考えられる。

④研究進捗評価結果を次の審査に活かす仕組み

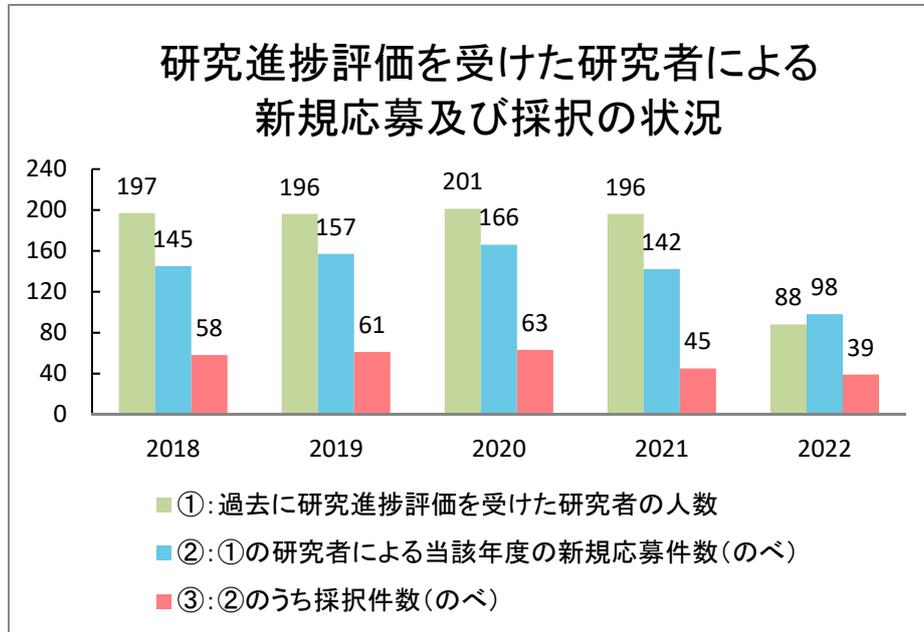
「特別推進研究」等の大型研究種目については、平成20（2008）年度から従来実施していた中間・事後評価を統一して「研究進捗評価」に改め、平成21（2009）年度からその評価結果を次の応募の際の研究計画に添付し、当該応募研究課題と進捗評価を受けた研究課題の関連性を審査の際に活用するなど、次の審査に活かす仕組みを導入し、優れた研究課題を継続して支援できるような審査を行っている。

また、評価対象課題の研究代表者に対し、長所（研究成果が期待される点など）及び短所（課題や見直しを要する点など）の両面から評価所見を開示しており、当該評価を受けた研究者においても、次に応募する研究課題の研究計画調書に評価結果を踏まえた研究計画を記載して審査を受けることができるようにしている（研究進捗評価は令和2（2020）年度をもって終了したため、当該

評価結果を次の審査に活かす仕組みは令和4(2022)年度審査まで)。

なお、研究進捗評価を受けた研究者から、研究期間最終年度において、引き続き次の新規応募があった研究課題はのべ98件であり、のべ39件が採択された。

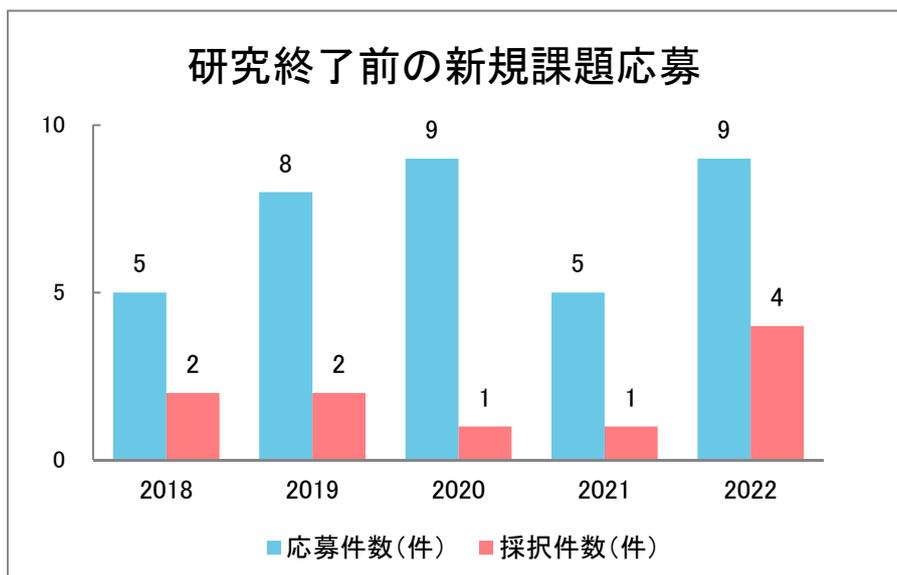
応募件数・採択件数の推移



⑤研究が予想以上に進展した場合に研究期間終了前に新規課題を応募できる仕組み

平成21(2009)年度より、継続課題の早期完了を可能とする仕組みが導入され、研究が予想以上に進展した場合に研究期間終了前に新規課題を応募することが可能となった。令和4(2022)年度は同制度を用いて9件(前年度5件)の新規課題の応募があり、4件(同1件)の研究課題が採択された。採択された研究課題の内訳は、基盤研究(B)2件、挑戦的研究(萌芽)2件であった。

応募件数・採択件数の推移



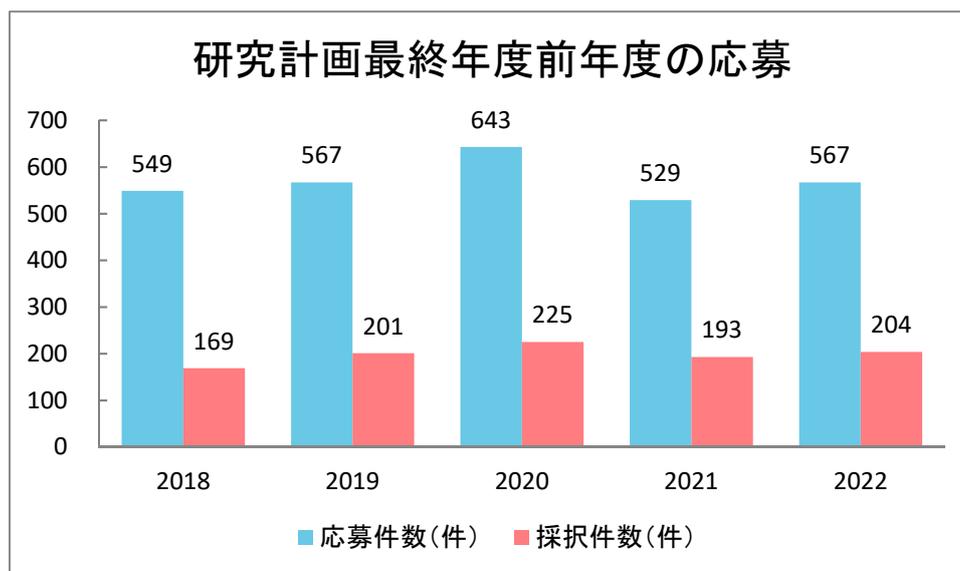
⑥ 研究計画最終年度前年度の応募

当初内定時の研究期間が4年以上の研究課題については、重複応募制限の特例として研究計画最終年度前年度の応募を認めており、令和4(2022)年度応募件数は567件(前年度529件)、採択件数は204件(同193件)であった。

また、平成30(2018)年度からは、「若手研究」から「基盤研究」への研究計画の移行が円滑に図られるよう、「若手研究」にあっては研究期間が3年の研究課題についても、基盤研究(S・A・B)への応募に限り、最終年度前年度の応募を可能とした。令和4(2022)年度において、若手研究を基に165件(前年度164件)の応募があり、54件(同61件)が採択された。このうち、基となる研究課題の研究計画が3年である応募件数は105件あり、29件が採択された。

研究費が途切れる心配を少なくし、優れた研究課題について安定して研究できることを目指す研究計画最終年度前年度の応募の仕組みが、一定の効果を得ていると考える。

応募件数・採択件数の推移



⑦ 若手研究(2回目)と基盤研究(S・A・B)への重複応募について

令和2(2020)年度応募より、優秀な若手研究者に対して、より規模の大きな研究への挑戦を促進するため、「若手研究(2回目)」と「基盤研究(S・A・B)」との重複応募が可能となった。これにより若手研究(2回目)と基盤研究(A)に1件、若手研究(2回目)と基盤研究(B)に361件の応募があった(基盤研究(S)への応募はなかった)。このうち、若手研究(2回目)と基盤研究(B)の両方、基盤研究(B)のみ、若手研究のみにそれぞれ57件、9件、217件が採択された。これまで基盤研究への応募を躊躇していた若手研究者に対して、一定程度基盤研究への応募を促す効果があったと考えられる。

2. 応募書類の受付

応募書類について、研究種目ごとに次のとおり受付を行った。

(1) 特別推進研究、基盤研究（S・A）

「電子申請システム」を活用して、令和3(2021)年9月6日を研究計画調書の提出（送信）期限として受付を行った。

(2) 基盤研究（B・C）、若手研究、挑戦的研究、奨励研究

「電子申請システム」を活用して、令和3(2021)年10月6日を研究計画調書の提出（送信）期限として受付を行った。

(3) 研究成果公開促進費（研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベース）

研究成果公開発表、国際情報発信強化、学術図書、データベースについては、「電子申請システム」を活用して、令和3(2021)年10月6日を計画調書の提出（送信）期限として受付を行った。

ただし、学術図書の「完成した原稿等の写し」及び国際情報発信強化の「最新の刊行物等」については、計画調書提出後～10月12日を受付期間として、受付を行った。

(4) 研究活動スタート支援

「電子申請システム」を活用して、令和4(2022)年5月11日を研究計画調書の提出（送信）期限として受付を行った。

3. 審査について

「科学研究費助成事業における審査及び評価に関する規程」に基づき、科学研究費委員会（別紙1）における研究種目ごとの次の小委員会等において、7,839名（前年度7,869名）の審査委員により審査を実施した。

(1) 特別推進研究

審査組織	審査・評価第一部会に置かれる専門分野ごとの3小委員会（審査委員数32名（以下同じ。））及び運営小委員会（8名）
審査方法	<ul style="list-style-type: none">・審査方式：総合審査（書面審査及び合議審査）・審査区分：「人文社会系」、「理工系」及び「生物系」（審査委員8名～14名）・審査意見書（応募研究課題と専門分野が近い国内の研究者各3名程度が作成）も活用し、書面審査及びヒアリング研究課題を選定する合議審査を実施・第1回合議審査で用いた資料に加えて、審査意見書（応募研究課題と専門分野が近い海外の研究者各3名程度が作成）も

	活用し、ヒアリングを実施 ・研究計画調書をもとに、書面審査の内容・第1回合議審査の内容・ヒアリングの内容を総合的に判断し、合議により採択研究課題を決定	
審査等の経過	令和3(2021)年10月4日 ～10月29日	審査意見書作成者(国内:258名)が審査意見書を作成
	令和3(2021)年10月22日 ～12月3日	書面審査
	令和3(2021)年12月22日 ～12月24日	第1回合議審査(ヒアリング研究課題の選定)
	令和4(2022)年1月11日 ～1月31日	審査意見書作成者(海外:24名)が審査意見書を作成
	令和4(2022)年2月10日 ～2月24日	第2回合議審査(ヒアリングの実施、採択候補研究課題の選定)
	令和4(2022)年3月8日	運営小委員会(各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定)

(2) 基盤研究 (S)

審査組織	審査・評価第二部会に置かれる専門分野ごとの21小委員会(126名)及び運営小委員会(23名)	
審査方法	・審査方式:総合審査(書面審査及び合議審査) ・審査区分:大区分(審査委員6名～18名) ・審査意見書(応募研究課題と専門分野に近い国内の研究者3名が作成)も活用し、書面審査及びヒアリング研究課題を選定する合議審査を実施 ・研究計画調書をもとに、書面審査の内容・第1回合議審査の内容・ヒアリングの内容を総合的に判断し、合議により採択研究課題を決定	
審査等の経過	令和3(2021)年10月4日 ～10月29日	審査意見書作成者(1,538名)が審査意見書を作成
	令和3(2021)年11月8日 ～12月13日	書面審査
	令和4(2022)年1月12日 ～2月3日	第1回合議審査(ヒアリング研究課題の選定)
	令和4(2022)年3月11日 ～4月1日	第2回合議審査(ヒアリングの実施、採択候補研究課題の選定)

	令和4(2022)年4月19日	運営小委員会(各小委員会の審査結果を踏まえ、採択研究課題を決定)
--	-----------------	----------------------------------

(3) 基盤研究 (A)

審査組織	審査第一部会に置かれる専門分野ごとの82小委員会(520名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式: 総合審査(書面審査及び合議審査) ・審査区分: 中区分(審査委員 6名~8名) ・書面審査及び合議審査を行い、採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和3(2021)年10月8日 ~11月16日	書面審査
	令和3(2021)年12月13日 ~令和4(2022)年1月21日	合議審査を実施(採択研究課題を決定)

(4) 挑戦的研究

審査組織	挑戦的研究部会に置かれる専門分野ごとの80小委員会(537名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式: <ul style="list-style-type: none"> (開拓) 総合審査(書面審査及び合議審査) (萌芽) 2段階書面審査 ・審査区分: 中区分 ・事前の選考[各小委員会に属する審査委員(6名~8名)のうち3名が研究計画調書(概要版)を用いて採択候補研究課題を絞り込む。(応募件数が少ない審査区分においては事前の選考は実施しない。)] ・審査委員全員が研究計画調書を用いて書面審査 ・合議審査により採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和3(2021)年11月18日 ~12月20日	(開拓) (萌芽) 事前の選考
	令和4(2022)年2月10日 ~3月14日	(開拓) 書面審査 (萌芽) 1段階目の書面審査
	令和4(2022)年4月11日 ~5月10日	(開拓) 合議審査を実施(採択研究課題を決定)
	令和4(2022)年5月11日 ~5月24日	(萌芽) 2段階目の書面審査

(5) 基盤研究 (B)

審査組織	審査第二部会に置かれる専門分野ごとの315小委員会(1,894名)
------	-----------------------------------

審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式：2段階書面審査 ・審査区分：小区分（審査委員 6名） ・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和3(2021)年11月4日 ～12月13日	1段階目の書面審査
	令和4(2022)年1月13日 ～1月26日	2段階目の書面審査（採択研究課題を決定）

(6) 基盤研究（C）

審査組織	審査第三部会に置かれる専門分野ごとの653小委員会（2,625名）	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式：2段階書面審査 ・審査区分：小区分（審査委員 4名） ・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和3(2021)年11月4日 ～12月13日	1段階目の書面審査
	令和4(2022)年1月13日 ～1月26日	2段階目の書面審査（採択研究課題を決定）

(7) 若手研究

審査組織	審査第四部会に置かれる専門分野ごとの390小委員会（1,562名）	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式：2段階書面審査 ・審査区分：小区分（審査委員 4名） ・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和3(2021)年11月4日 ～12月13日	1段階目の書面審査
	令和4(2022)年1月13日 ～1月26日	2段階目の書面審査（採択研究課題を決定）

(8) 研究活動スタート支援

審査組織	審査第五部会に置かれる専門分野ごとの65小委員会（261名）	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式：2段階書面審査 ・審査区分：「研究活動スタート支援 審査区分」（審査委員 4名） ・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和4(2022)年6月7日 ～7月8日	1段階目書面審査
	令和4(2022)年7月26日 ～8月3日	2段階目の書面審査（採択研究課題を決定）

(9) 奨励研究

審査組織	奨励研究部会に置かれる専門分野ごとの59小委員会(177名)	
審査方法	<ul style="list-style-type: none"> ・審査方式：2段階書面審査 ・審査区分：「奨励研究 審査区分表」(審査委員 3名) ・2段階にわたり書面審査を行い、採択研究課題を決定 	
審査の経過	令和3(2021)年11月4日 ～12月13日	1段階目の書面審査
	令和4(2022)年1月13日 ～1月26日	2段階目の書面審査(採択研究課題を決定)

(10) 研究成果公開促進費(研究成果公开发表、国際情報発信強化、学術図書、データベース)

審査組織	成果公開部会に置かれる6小委員会(105名)及び運営小委員会(6名)		
審査方法	①国際情報発信強化	〔国際情報発信強化(A)・オープンアクセス刊行支援〕	<ul style="list-style-type: none"> ・国際情報発信強化小委員会に属する15名(編集長等経験者9名及び刊行業務等担当者6名)の審査委員が書面審査を実施 ・小委員会において合議審査により採択課題を決定
		〔国際情報発信強化(B)〕	<ul style="list-style-type: none"> ・国際情報発信強化小委員会に属する6名～12名(審査を希望する審査区分の編集長等経験者3名(2区分にまたがる場合は6名、3区分にまたがる場合は9名)及び刊行業務担当者3名)の関連審査委員が書面審査を実施 ・小委員会において合議審査により採択課題を決定
	②研究成果公开发表(研究成果公开发表(B)のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を除く)、学術図書、データベース		<ul style="list-style-type: none"> ・各小委員会に属する3名の関連審査委員が書面審査を実施 ・各小委員会において合議審査により採択課題を決定

	③ 研究成果公开发表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」		<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果の社会還元・普及小委員会に属する21名の審査委員が書面審査を実施 ・合議審査により採択課題を決定
審査の経過	①国際情報発信強化	令和3（2021）年12月7日～令和4（2022）年1月31日	書面審査
		令和4（2022）年1月28日及び2月14日	合議審査（採択課題を決定）
	② 研究成果公开发表（研究成果公开发表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」を除く）、学術図書、データベース	令和3（2021）年11月24日～令和4（2022）年1月11日	書面審査
		令和4（2022）年1月31日～3月11日	合議審査（採択課題を決定）
	③ 研究成果公开发表（B）のうち、「ひらめき☆ときめきサイエンス」	令和3（2021）年11月24日～令和4（2022）年1月12日	書面審査
		令和4（2022）年2月10日	合議審査（採択候補課題を決定）
		令和4（2022）年2月17日	研究成果の社会還元・普及小委員会において採択課題を決定

4. 新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた対応について

(1) 審査について

新型コロナウイルス感染症については、令和2(2020)年1月に国内でも感染者が確認され、以後、国内における感染者が拡大するなどの経過を経て現在の状況に至っている。

このため、総合審査方式における合議審査は、昨年に引き続き、審査委員が日本学術振興会に一同に会する「集合会議」形式ではなく、Web上の会議システムを利用した「Web会議」形式で実施した。

昨年に引き続き、確実に審査を完了させるため、合議審査の開催に先立ち、希望する審査委員に対して「Web会議」システムへの試験接続を行い、通信環境上の障害発生要因の有無を確認し、必要に応じて機材を送付する等の対応を行った。

個別の対応状況については、以下のとおりであった。

①特別推進研究、基盤研究（S）

書面審査終了後、同一の審査委員による第1回合議審査において、ヒアリング実施対象とする研究課題の選定を行い、その後、第2回合議審査においてヒアリングを実施し、合議により採択候補研究課題を選定することとしている。

令和4(2022)年度応募の審査も、コロナの感染拡大等の影響を踏まえ、昨年度と同様に、第1回合議審査（ヒアリング研究課題の選定）、第2回合議審査（ヒアリングの実施及び採択候補研究課題の選定）ともに「Web会議」形式で実施した。

なお、「Web会議」形式による審査にあたり、確実に審査を完了させるために行った主な対応は以下のとおり。

- ・応募者からの説明は、「説明動画ファイル（10分間の内容説明のナレーション付き）」及び「説明資料」の提出を求めることに代え、ヒアリングの実施に先立ち審査委員へ当該動画等を提供し内容の確認を依頼。
- ・ヒアリング当日は、質疑応答をより円滑に実施するため、ショートプレゼン（研究代表者からの口頭での研究概要説明）を行った上で、応募者との質疑応答により応募課題に対する疑問点の解消を図った。

②基盤研究（A）、挑戦的研究（開拓）

従来は、書面審査の後の合議審査は「集合会議」により実施していたが、引き続き、全ての合議審査を「Web会議」形式により実施し、昨年度より1日当たりの合議審査の実施数を増やすことで、従来の「集合会議」と同程度の開催期間に近づけた。

(2) 「Web会議」形式の課題と改善

令和4(2022)年度応募の審査は昨年に引き続き総合審査方式におけるすべて

の合議審査を「Web 会議」形式により行った。

会議の運営について、大きなトラブルが発生することなく全合議審査を終了することができた一方、委員各位に依存せざるを得ない通信環境等については、事務局でコントロールできないこともあり、全くストレスのない会議とするまでには引き続き検証や工夫が必要である。

また、審査終了後、審査委員に対して実施した審査に関するアンケートでは、従来の「集合会議」形式の方が審査委員間で細かな意思疎通を行いやすいという意見があった一方、「Web 会議」形式の方がスケジュールの調整が容易になった、「Web 会議」形式においても「集合会議」形式との差は余り感じられず、十分議論を行うことができたという肯定的な意見も多く寄せられた。

特別推進研究及び基盤研究（S）で実施しているヒアリングについて、質疑応答をより円滑にするため、簡単なプレゼンテーション（概要説明）もヒアリング当日に実施して欲しいという審査委員からの意見を踏まえ、令和4（2022）年度からショートプレゼン（研究代表者からの口頭での研究概要説明）を導入した。

また、審査終了後、審査委員に対して実施した審査に関するアンケートでは、今回導入したショートプレゼンについては、代表者が重要と考えている内容が明確になる、申請書の内容を思い起こすことができたなど、肯定的な意見が複数寄せられた。

令和2（2020）年度及び令和3（2021）年度の審査の実施により見えてきた課題は改善されつつある。これからも審査委員からの意見等を踏まえ、合議審査等の更なる充実に資するように、引き続き検討していく。

5. 応募・採択等の状況

（別紙3）令和4（2022）年度科研費助成事業の審査結果（研究種目別の応募・採択等の状況）

（別紙4）研究機関種別の応募・採択等の状況

（別紙5）職種別の応募・採択等の状況

（別紙6）男女別の応募・採択等の状況

（別紙7）年齢別の応募・採択等の状況

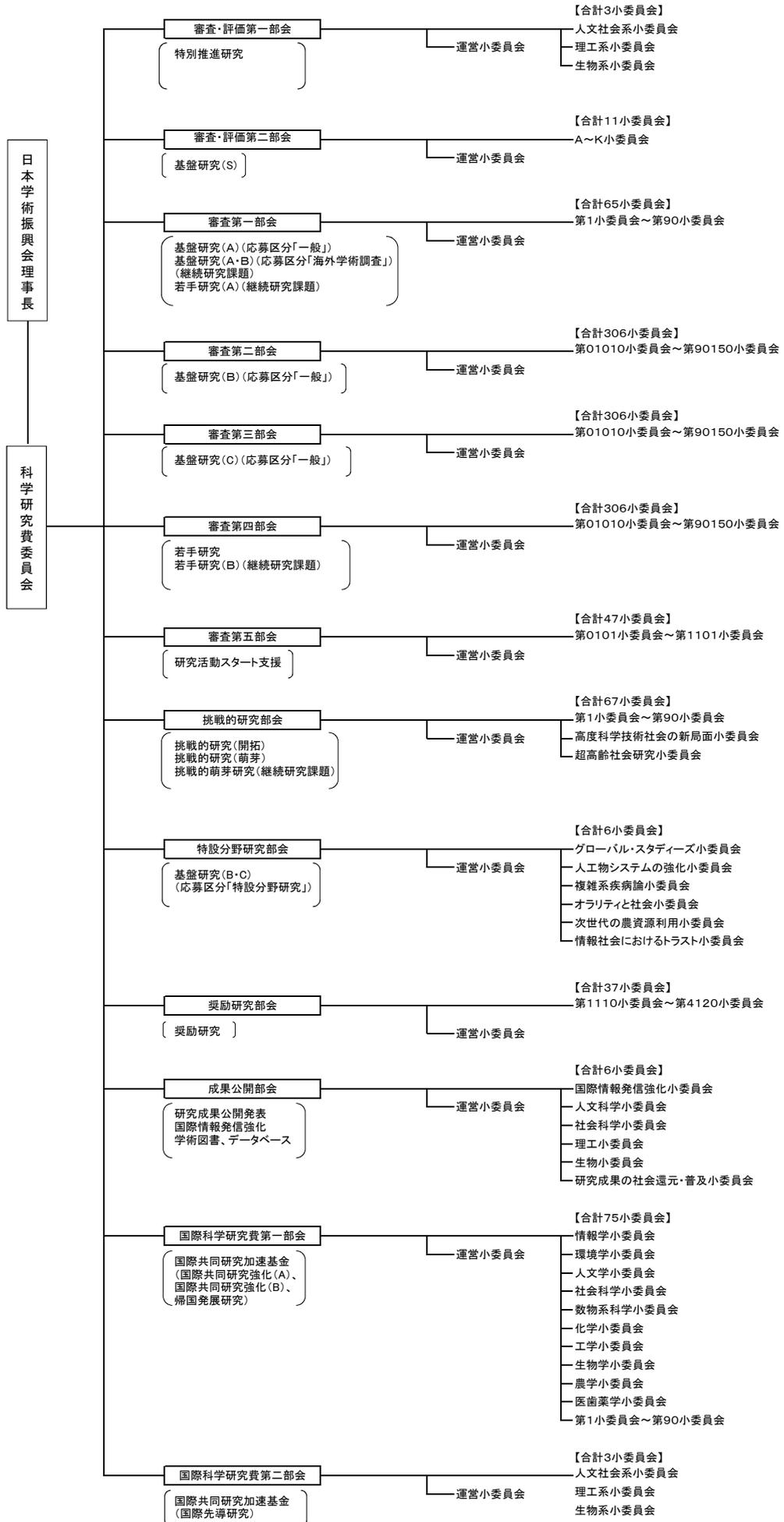
注1）別紙3～7に記載の配分額は直接経費の配分額を指す。

注2）別紙3～7について、科研費の審査（ピアレビュー）に当たっては研究者の属性等を考慮した審査は行っていないが、審査結果の参考として集計したもの。

科学研究費委員会組織図

別紙1

【小委員会合計: 1, 238小委員会(分割及び合同は含まない)】



令和4(2022)年度公募 審査スケジュール (基盤研究 (A・B・C)、若手研究)

		基盤(A)	基盤(B)	基盤(C)	若手
		82小委員会	315小委員会	653小委員会	390小委員会
10月		10月8日～11月16日 書面審査			
11月		12月13日～1月21日 合議審査	11月4日～12月13日 書面審査(1段階目)		
12/13	月	第10小委員会 (6) 第44小委員会 (6)			
14	火	第13小委員会Ⅰ (6) 第21小委員会Ⅱ (6) 第22小委員会Ⅱ (6)			
		第16小委員会Ⅱ (6) 第22小委員会Ⅰ (6)			
16	木	第45小委員会 (6) 第48小委員会 (6) 第90小委員会Ⅰ (6)			
		第16小委員会Ⅰ (6) 第53小委員会 (6) 第61小委員会Ⅱ (8)			
18	土				
19	日				
20	月	第3小委員会Ⅰ (7) 第8小委員会 (6) 第59小委員会 (6) 第62小委員会 (6)			
		第15小委員会Ⅰ (6) 第17小委員会Ⅲ (6) 第39小委員会 (7) 第51小委員会 (6)			
		第17小委員会Ⅰ (6) 第46小委員会 (6) 第55小委員会 (6) 第60小委員会Ⅰ (8)			
		第12小委員会 (6) 第24小委員会 (6) 第40小委員会 (6) 第43小委員会Ⅱ (6) 第52小委員会 (6)			

24	金	第2小委員会 (8)				
		第38小委員会 (6)				
		第64小委員会 (6)				
25	土					
26	日					
12/27	月	第1小委員会 (8)				
		第19小委員会 (6)				
1/4	火	第60小委員会Ⅱ (8)				
5	水	第20小委員会 (6)				
		第42小委員会 (6)				
		第90小委員会Ⅱ (6)				
6	木	第6小委員会 (6)				
		第11小委員会 (6)				
		第43小委員会Ⅰ (6)				
		第47小委員会 (6)				
7	金	第3小委員会Ⅱ (7)				
		第13小委員会Ⅱ (6)				
		第15小委員会Ⅱ (6)				
		第32小委員会 (6)				
		第58小委員会 (8)				
8	土					
9	日					
10	月					
11	火	第30小委員会 (6)				
		第63小委員会Ⅱ (6)				
12	水	第21小委員会Ⅲ (6)				
		第56小委員会 (7)				
		第63小委員会Ⅰ (6)				
13	木	第27小委員会 (6)				
		第31小委員会 (6)				
		第35小委員会 (6)				
		第41小委員会 (6)				
		第57小委員会 (8)				
14	金	第4小委員会 (6)				
		第7小委員会Ⅰ (8)				
		第23小委員会 (6)				
		第50小委員会 (6)				
		第54小委員会 (6)				
15	土					
16	日					
17	月	第9小委員会 (8)				
		第21小委員会Ⅰ (6)				
		第26小委員会Ⅰ (6)				
		第33小委員会 (6)				

1月13日～1月26日
書面審査(2段階目)

18	火	第5小委員会 (7)			
		第26小委員会Ⅱ (6)			
		第34小委員会 (6)			
19	水	第14小委員会 (6)			
		第18小委員会 (6)			
		第28小委員会Ⅰ (6)			
		第37小委員会 (6)			
20	木	第7小委員会Ⅱ (8)			
		第29小委員会 (6)			
		第49小委員会 (7)			
		第61小委員会Ⅰ (8)			
21	金	第17小委員会Ⅱ (6)			
		第25小委員会 (6)			
		第28小委員会Ⅱ (6)			
		第36小委員会 (6)			
1月					
2月	2月28日(月) 審査結果通知				
3月	4月1日(金)交付内定に向けた作業 ・交付内定通知作成 ・各大学等への発送準備				
応募件数	1,920件	11,552件	45,436件	13,142件	
審査委員数	520名	1,894名	2,625名	1,562名	

※ () 内の数字は審査委員数を示している。

※小委員会名の数字は、中区分を示している。

審査区分表：https://www.jsps.go.jp/j-grantsinaid/02_koubo/shinsakubun.html

令和4(2022)年度科学研究費助成事業の審査結果

新規採択分

令和4(2022)年10月現在

研究種目	研究課題数			研究経費	1課題当たりの配分額	
	応募 件	採択 件	採択率 %	配分額 千円	平均 千円	最高 千円
科学研究費	[91,337] 90,035	[25,855] 25,788	[28.3] 28.6	[56,554,050] 55,729,500 【 16,661,370 】	[2,187] 2,161	[194,900] 186,300
(1)特別推進研究	[104] 88	[11] 10	[10.6] 11.4	[1,191,900] 971,800 【 291,540 】	[108,355] 97,180	[194,900] 186,300
(2)基盤研究(S)	[649] 649	[80] 80	[12.3] 12.3	[3,094,700] 3,233,400 【 970,020 】	[38,684] 40,418	[95,000] 86,700
(3)基盤研究(A)	[2,292] 1,920	[628] 526	[27.4] 27.4	[6,965,400] 5,972,000 【 1,791,600 】	[11,091] 11,354	[42,900] 29,000
(4)基盤研究(B)	[11,320] 11,552	[3,396] 3,403	[30.0] 29.5	[16,967,300] 17,061,200 【 5,118,360 】	[4,996] 5,014	[12,900] 13,800
(5)基盤研究(C)	[45,496] 45,436	[12,817] 12,954	[28.2] 28.5	[14,621,600] 14,780,700 【 4,434,210 】	[1,141] 1,141	[3,100] 3,100
(6)挑戦的研究(開拓)	[1,564] 1,365	[178] 183	[11.4] 13.4	[1,145,800] 1,244,200 【 373,260 】	[6,437] 6,799	[17,400] 17,200
(7)挑戦的研究(萌芽)	[9,963] 9,391	[1,570] 1,505	[15.8] 16.0	[3,574,000] 3,444,700 【 1,033,410 】	[2,276] 2,289	[4,700] 4,800
(8)若手研究	[13,163] 13,142	[5,294] 5,293	[40.2] 40.3	[7,264,700] 7,388,500 【 2,216,550 】	[1,372] 1,396	[3,500] 3,400
(9)研究活動スタート支援	[3,665] 3,617	[1,402] 1,391	[38.3] 38.5	[1,521,300] 1,441,400 【 432,420 】	[1,085] 1,036	[1,200] 1,100
(10)奨励研究	[3,121] 2,875	[479] 443	[15.3] 15.4	[207,350] 191,600	[433] 433	[470] 480
研究成果公開促進費	[1,082] 1,022	[489] 441	[45.2] 43.2	[602,020] 573,880	[1,231] 1,301	[12,800] 9,200
研究成果公開発表	[347] 338	[229] 201	[66.0] 59.5	[125,120] 123,480	[546] 614	[6,800] 7,800
国際情報発信強化	[24] 29	[10] 13	[41.7] 44.8	[38,000] 43,300	[3,800] 3,331	[6,300] 6,000
学術図書	[636] 585	[218] 196	[34.3] 33.5	[355,600] 301,800	[1,631] 1,540	[12,800] 4,500
データベース	[75] 70	[32] 31	[42.7] 44.3	[83,300] 105,300	[2,603] 3,397	[6,900] 9,200
合計	[92,419] 91,057	[26,344] 26,229	[28.5] 28.8	[57,156,070] 【 16,904,010 】 56,303,380 【 16,661,370 】	[2,170] 2,147	[194,900] 186,300

(注1)上段〔 〕内は前年度、下段〔 〕は間接経費(外数)を示す。

(注2)基盤研究(C)、挑戦的研究(開拓・萌芽)、若手研究については、基金種目であるため、「配分額」欄及び「1課題当たりの配分額」欄には、令和4年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注3)「特別研究員奨励費」は含まない。

令和4(2022)年度科学研究費助成事業の審査結果

新規採択分＋継続分

令和4(2022)年10月現在

研究種目	研究課題数		研究経費 配分額	1課題当たりの配分額	
	応募	採択		平均	最高
	件	件	千円	千円	千円
科学研究費	[146,574] 144,866	[81,055] 80,529	[146,395,673] 146,169,943 [43,792,648]	[1,806] 1,815	[194,900] 349,000
(1)特別推進研究	[152] 134	[59] 56	[5,111,700] 5,191,300 [1,557,390]	[86,639] 92,702	[194,900] 349,000
(2)基盤研究(S)	[963] 965	[394] 395	[11,216,800] 11,587,400 [3,476,220]	[28,469] 29,335	[95,000] 86,900
(3)基盤研究(A)	[3,922] 3,611	[2,258] 2,199	[19,197,080] 18,078,200 [5,423,460]	[8,502] 8,221	[42,900] 29,000
(4)基盤研究(B) ※1	[19,293] 19,876	[11,332] 11,656	[41,569,943] 42,496,797 [12,749,039]	[3,668] 3,646	[12,900] 13,800
(5)基盤研究(C)	[73,243] 73,701	[40,564] 41,219	[37,994,900] 37,906,000 [11,371,800]	[937] 920	[3,100] 3,100
(6)挑戦的萌芽研究	[1] 0	[1] 0	[0] 0 [0]	[0] 0	[0] 0
(7)挑戦的研究(開拓)	[1,861] 1,761	[475] 579	[2,532,900] 3,148,000 [944,400]	[5,332] 5,437	[17,400] 17,200
(8)挑戦的研究(萌芽)	[11,882] 11,565	[3,489] 3,679	[6,842,100] 7,212,100 [2,163,630]	[1,961] 1,960	[4,700] 4,800
(9)若手研究(A) ※1	[6] 3	[6] 3	[11,263] 5,796 [1,739]	[1,877] 1,932	[3,000] 3,000
(10)若手研究(B)	[100] 35	[100] 35	[0] 0 [0]	[0] 0	[0] 0
(11)若手研究	[26,894] 25,287	[19,025] 17,438	[18,760,000] 17,440,400 [5,232,030]	[986] 1,000	[3,500] 3,400
(12)研究活動スタート支援	[5,126] 5,045	[2,863] 2,819	[2,947,900] 2,909,800 [872,940]	[1,030] 1,032	[1,200] 1,200
(13)奨励研究	[3,131] 2,883	[489] 451	[211,087] 194,150	[432] 430	[580] 540
研究成果公開促進費	[1,152] 1,083	[559] 502	[891,120] 826,180	[1,594] 1,646	[35,300] 35,300
研究成果公開発表	[349] 339	[231] 202	[134,820] 130,880	[584] 648	[7,400] 7,800
国際情報発信強化	[73] 72	[59] 56	[284,200] 263,000	[4,817] 4,696	[35,300] 35,300
学術図書	[640] 590	[222] 201	[359,100] 306,500	[1,618] 1,525	[12,800] 4,500
データベース	[90] 82	[47] 43	[113,000] 125,800	[2,404] 2,926	[6,900] 9,200
合計	[147,726] 145,949	[81,614] 81,031	[147,286,793] [43,855,376] 146,996,123 [43,792,648]	[1,805] 1,814	[194,900] 349,000

(注1)上段〔 〕内は前年度、下段【 】は間接経費(外数)を示す。

(注2)基盤研究(C)、挑戦的萌芽研究、挑戦的研究(開拓・萌芽)、若手研究(B)、若手研究については、基金種目であるため、「配分額」欄及び「1課題あたりの配分額」欄には、令和4年度の当初計画に対する配分額を計上。

(注3)「特別研究員奨励費」、基盤研究(B・C)「特設分野研究」、「新学術領域研究(研究領域提案型)」は含まない。

なお、基盤研究(B・C)「特設分野研究」の令和4(2022)年度継続分の応募・採択状況は、応募数(1件)、採択数(1件)、配分額(直接経費 0千円、間接経費 0千円)。

(注4)※1は、令和4年度の配分額を計上。

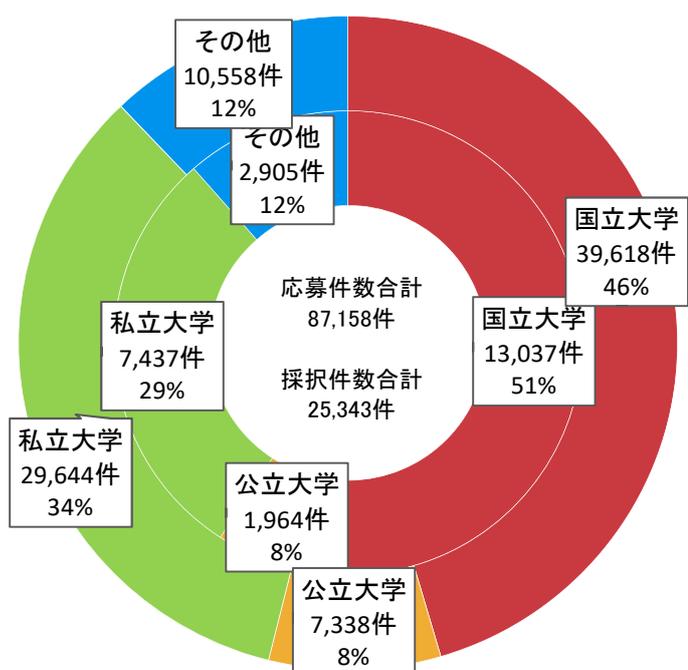
研究機関種別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
国立大学	39,618	13,037	32.9%	33,238,000	2,550
公立大学	7,338	1,964	26.8%	3,307,100	1,684
私立大学	29,644	7,437	25.1%	11,741,700	1,579
その他	10,558	2,905	27.5%	7,248,800	2,495
短期大学、 高等専門学校	2,891	414	14.3%	580,900	1,403
大学共同利用機関法人	791	248	31.4%	1,058,900	4,270
国公立試験研究機関	987	324	32.8%	554,700	1,712
特殊法人、 独立行政法人等	5,007	1,668	33.3%	4,462,500	2,675
一般社団法人、 一般財団法人	707	222	31.4%	515,600	2,323
企業等の研究所	175	29	16.6%	76,200	2,628
合計	87,158	25,343	29.1%	55,535,600	2,191

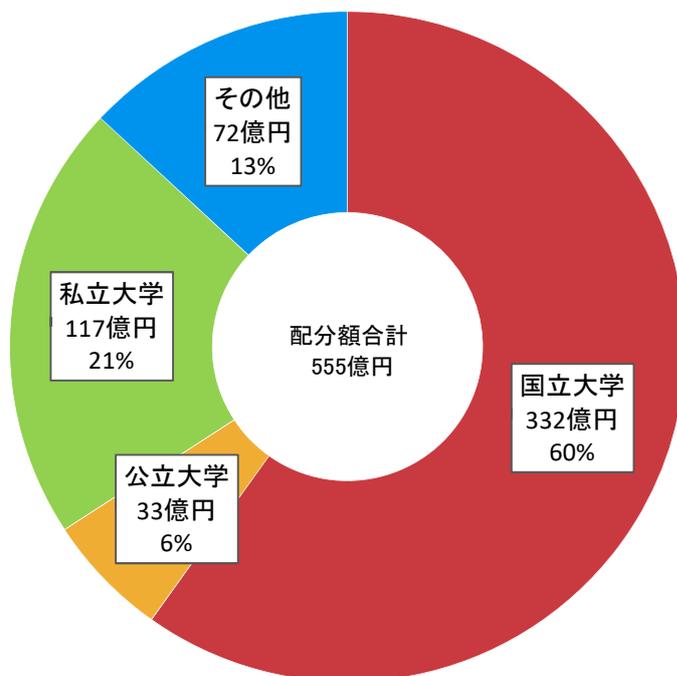
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数



配分額

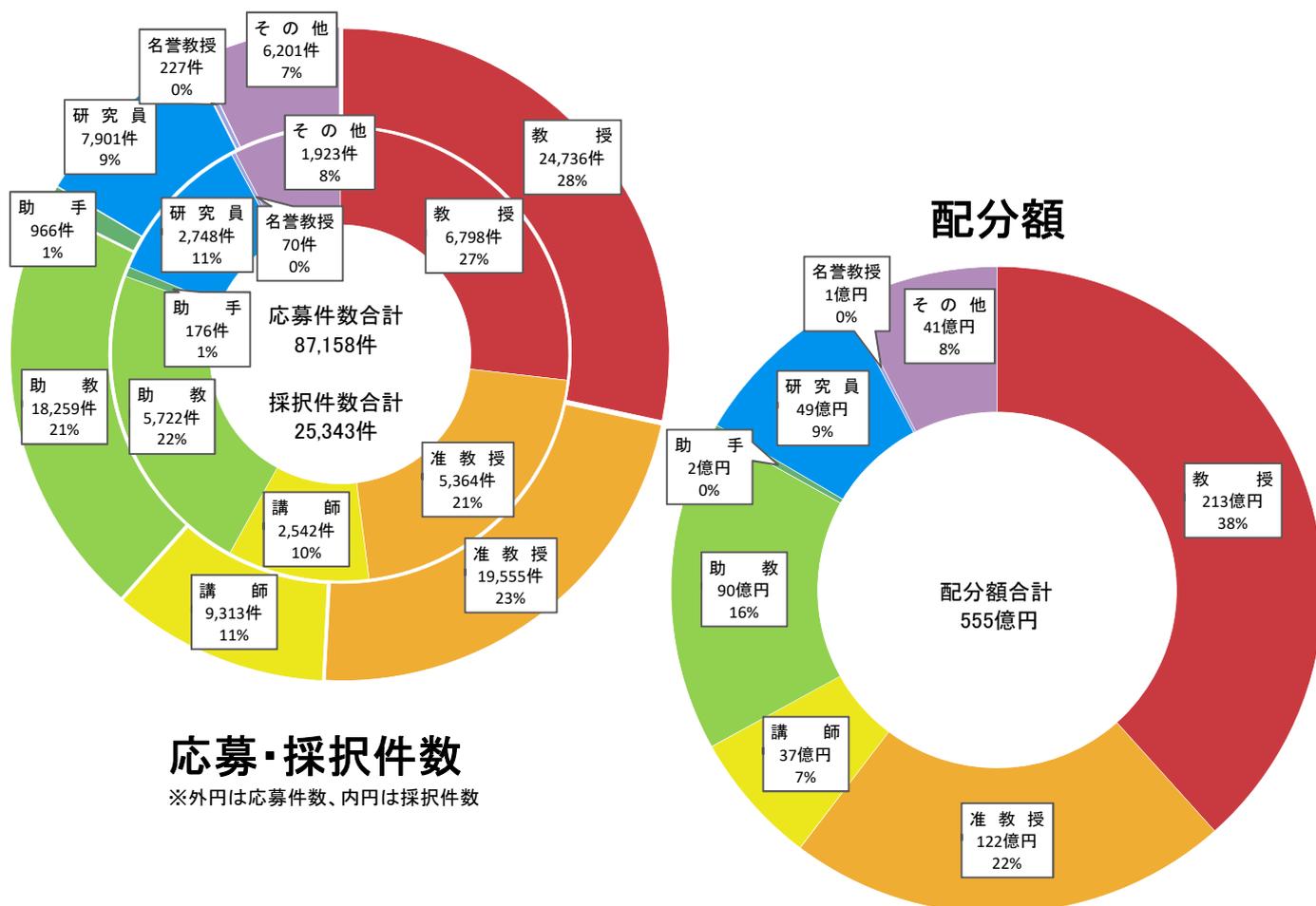


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

職種別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
教授	24,736	6,798	27.5%	21,312,500	3,135
准教授	19,555	5,364	27.4%	12,186,700	2,272
講師	9,313	2,542	27.3%	3,687,900	1,451
助教	18,259	5,722	31.3%	8,981,200	1,570
助手	966	176	18.2%	217,400	1,235
研究員	7,901	2,748	34.8%	4,881,200	1,776
名誉教授	227	70	30.8%	118,800	1,697
その他	6,201	1,923	31.0%	4,149,900	2,158
合計	87,158	25,343	29.1%	55,535,600	2,191

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」

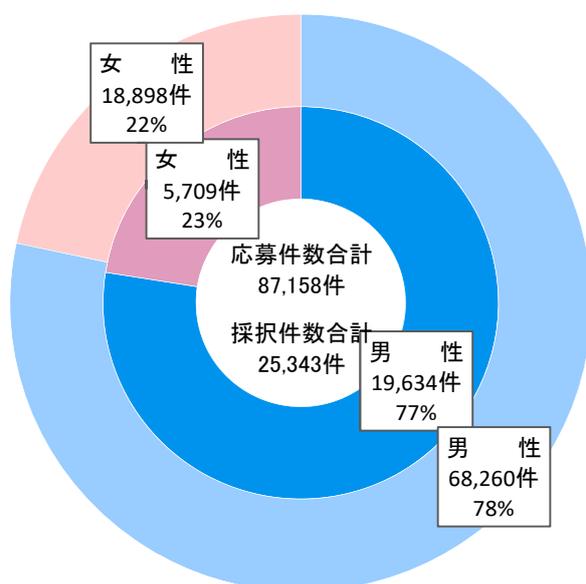


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

男女別の応募・採択等の状況

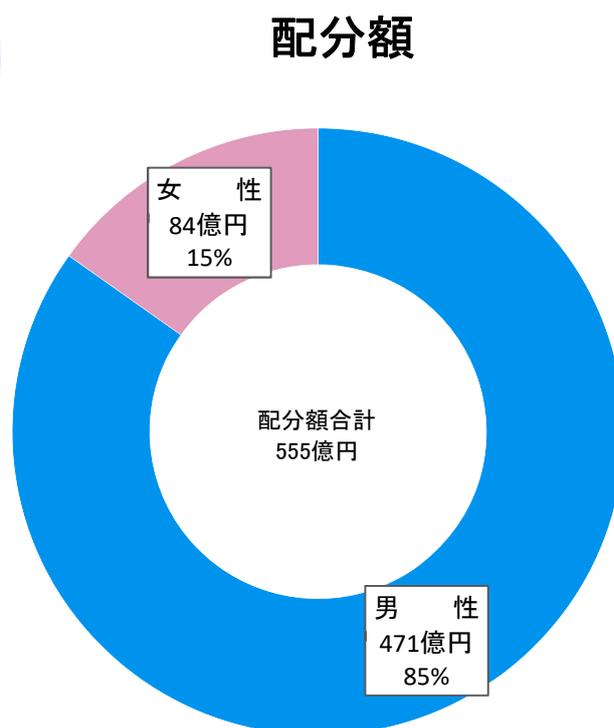
区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
男性	68,260	19,634	28.8%	47,119,200	2,400
女性	18,898	5,709	30.2%	8,416,400	1,474
合計	87,158	25,343	29.1%	55,535,600	2,191

※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」



応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数

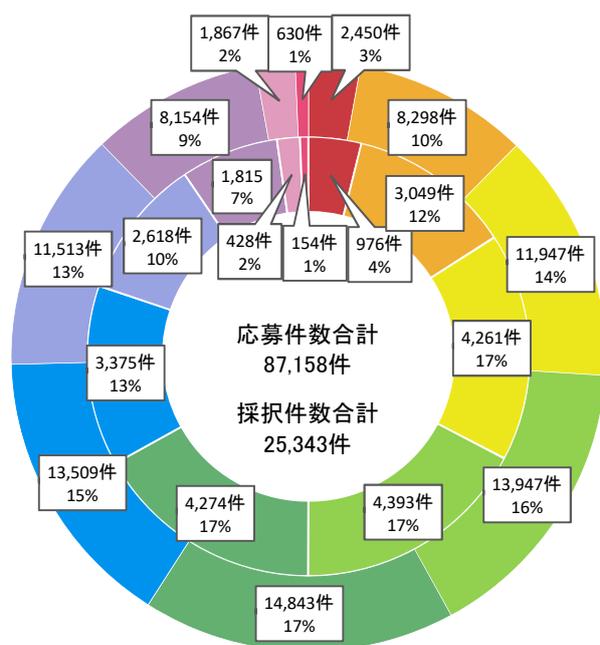


※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。

年齢別の応募・採択等の状況

区分	応募件数	採択件数	採択率	配分額(千円)	平均配分額(千円)
30歳未満	2,450	976	39.8%	1,239,600	1,270
30歳以上 35歳未満	8,298	3,049	36.7%	4,643,500	1,523
35歳以上 40歳未満	11,947	4,261	35.7%	7,343,200	1,723
40歳以上 45歳未満	13,947	4,393	31.5%	8,965,000	2,041
45歳以上 50歳未満	14,843	4,274	28.8%	10,038,800	2,349
50歳以上 55歳未満	13,509	3,375	25.0%	8,850,300	2,622
55歳以上 60歳未満	11,513	2,618	22.7%	7,149,800	2,731
60歳以上 65歳未満	8,154	1,815	22.3%	5,794,700	3,193
65歳以上 70歳未満	1,867	428	22.9%	1,083,800	2,532
70歳以上	630	154	24.4%	426,900	2,772
合計	87,158	25,343	29.1%	55,535,600	2,191

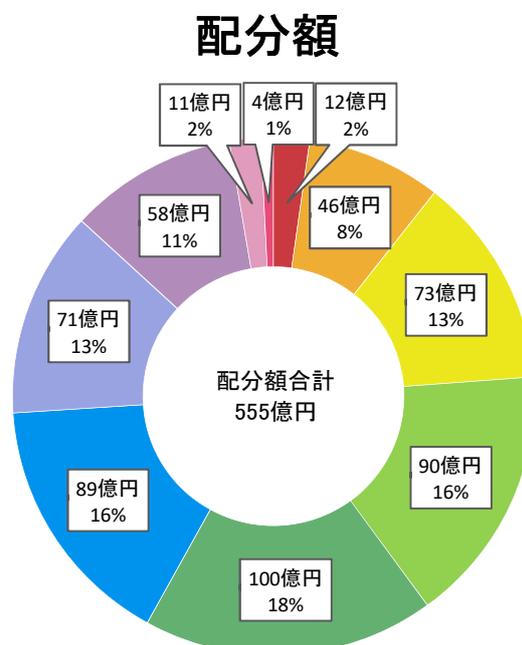
※対象:「特別推進研究」、「基盤研究(S・A・B・C)」、「特設分野研究」を除く、「若手研究」、「挑戦的研究(開拓・萌芽)」、「研究活動スタート支援」



応募・採択件数

※外円は応募件数、内円は採択件数

- 30歳未満
- 30歳以上 35歳未満
- 35歳以上 40歳未満
- 40歳以上 45歳未満
- 45歳以上 50歳未満
- 50歳以上 55歳未満
- 55歳以上 60歳未満
- 60歳以上 65歳未満
- 65歳以上 70歳未満
- 70歳以上



※円グラフに表示されている割合・値については、四捨五入のために、合計が100%や合計値にならないことがある。